

私たちの物語く誘っんじやーマンやってますく

H・Aさん(70才)&

大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	高石 拓実
大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	渡部 颯大
大正大学社会共生学部社会福祉学科4年	石原 怜

会社勤めが終わって、現役引退したのが六十五歳で、プンプンしてたら、中学校の時の同級生から電話がかかってきて、「一人になって寂しくなっちゃって、あの付き合ってた人ないか」って。

「俺も引退して一人だから、一緒に遊ぼうか」って言ったのが三年ぐらい前で、彼はお酒を飲まないから、昼間に会うっていうことになって、いろいろ調べたら、オレンジカフェっていうのがあるのね。おしゃべりサロンみたいな。

そのオレンジカフェっていうのが北区の、あちこちで開かれて、月に八箇所、その彼と待ち合わせして一緒に参加するようになって。

まあ、そういうことをしていたら、

男の人は引退するとなかなか家から出ない。

だから体力も落ちてきて病気になるがちだし、

認知症とかね、ボケやすいっていうことが、

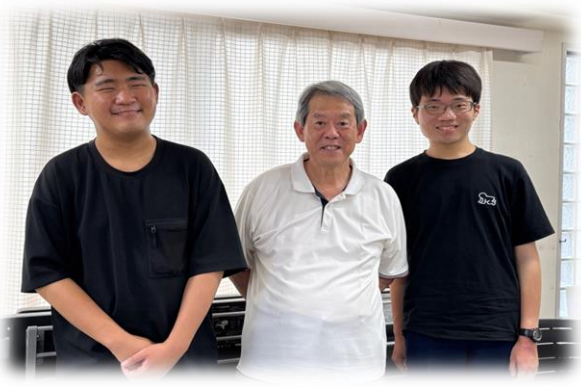
今問題になっていることがわかったんで、

なんとかしなきゃなって、問題意識で。

ポッチャサークル作ってみたり、

モルックのサークル作ってみたり、

体操教室始めてみたり、いろんなことをやり始めた感じです。



ポッチャサークルは、名簿上二十人ぐらい。月に二回やってて

毎回出てくるのは十二、三人なんだけど、男の人はね、僕ともう二人だけ。

それから、あのモルックのサークルはだいたい毎回二十人ぐらい出てくるんだけど、

男の人は毎回三、四人。

体操教室っていうのを始めて、十人ぐらいで活動してるんだけど。

男は、俺だけっていう感じ。

今ね、北区「誘うんじゃーマン大作戦」っていうのをね、考えてて。要するに男の人でも、誘われたら、出てくると思うんだよね。

で、一回出てきたら、「結構楽しいね」とか言っていて、出やすくなるんじゃないかと思うんだよね。

だから、そういう僕みたいに人を誘える人間を作ろうという仕組み。

それで、人を誘って、二人でも三人でもいいから、

一緒にそこに参加したら誘った人も誘われた人も、

ポイントが一つもらえて。男性限定でね。

で、そのポイントがいくつか貯まったら、なんか記念品もらえとか、

缶ビール一個もらえとか、そういう風にしたら、男性が集まるんじゃないかって。

それが僕の今、考えている北区「誘うんじゃーマン大作戦」。

僕ね、金融関係の会社に入社したの。

全国レベルの会社だし、国際的な会社だから、

若い人なんかも世界中あちこち飛び回ってんだけど、僕も転勤があったわけ、青森支店、栃木の宇都宮支店、名古屋支店っていうのが、そういう転勤をね、三年ずつくらい、奥さんと子供二人と四人で。

子供はね、二人とも独立してね。だけどね、近くに住んでんだよ。

奥さんとはちょっと別れちゃって、前まで奥さんも近くに住んでんだけど。

誰かの誕生日だとか。そういう時はみんなで集まって、

食事して別に喧嘩して別れたわけじゃないから。うちの奥さんとは。

僕は時事ネタとか経済ネタとかさ、大好きだからさ、

そういう話、しだしたら止まんない。

あと、あの株やってるから。

デイトレーダーってやつね。

自然とね、経済ネタもいろいろ入ってくるんだよね。

